

関数空間の isomorphical classification について

作新学院大 酒井政美 (Masami Sakai)

関数空間の isomorphical classification について, Baars と Groot によって得られた結果の紹介をする。

ここで考える空間はすべて separable metric space とする。空間 X 上の連続関数全体 $C(X)$ に, 各点収束位相をいれた空間を $C_p(X)$, また compact-open 位相をいれた空間を $C_0(X)$ とする。 $C_0(X) \simeq C_0(Y)$ および $C_p(X) \simeq C_p(Y)$ は, 線形位相空間として同型であることを示すとする。

0-dimensional compact spaces の族における $C_0(X)$ の同型分類は, Bessaga と Pelczyński によって次の結果が示されている。

Theorem [3] X と Y が 0-dimensional compact space のとき,
 $C_0(X) \simeq C_0(Y) \iff$ 次の i), ii), iii) のうちどれかひとつが成立する。

- i) X と Y は有限で、同じ濃度をもち、
- ii) countable infinite ordinals α, β が存在して、
 $X \approx [1, \alpha], Y = [1, \beta]$ が $\max(\alpha, \beta) < [\min(\alpha, \beta)]^\omega$,
- iii) X と Y は非可算濃度の空間。

各点収束位相をいれた空間 $C_p(X)$ の分類については、最近 Baars と Groot が $C_0(X)$ の場合と同様の分類ができることを示した。実際、Baars と Groot は次の結果を証明している。

Theorem [2] X と Y が 0-dimensional locally compact space のとき、
 $C_p(X) \simeq C_p(Y) \iff C_0(X) \simeq C_0(Y)$.

上の定理の 0-dimensional の条件は本質的である。Cantor discontinuum C と unit interval I に対して、Miljutin の結果 [4] より $C_0(C) \simeq C_0(I)$ であるが、Pestov の結果 [5] より $C_p(C) \not\simeq C_p(I)$ である。

X と Y が 0-dimensional compact space の場合について、上の定理の証明の sketch を紹介する。証明には次の Lemma がくりかえし使用される。Lemma の証明には 0-dimensional metric space の閉集合は retract になっていることを利用する。

Lemma X を 0-dimensional compact space, A を X の閉集合としたとき,

$$C_p(X) \cong C_p(A) \times C_{p_0}(X/A)$$

ここで X/A は X において A を 1 点につぶして得られる商空間, また $C_{p_0}(X/A) = \{f \in C_p(X/A) \mid f(A) = 0\}$ とする。

証明の sketch

(\implies) $C_p(X) \cong C_p(Y)$ のとき, Arhangel'ski の結果 [1] より,
 $C_0(X) \cong C_0(Y)$.

(\impliedby) $C_0(X) \cong C_0(Y)$ とすると Bessaga と Pełczyński の結果より, i), ii), iii) のどれかが成立している。i) の場合は明らかに $C_p(X) \cong C_p(Y)$ となる。

次に X と Y が iii) を満たしているとする。 $\omega \leq \alpha \leq \beta < \alpha^\omega$ のとき $C_p([1, \alpha]) \cong C_p([1, \beta])$ を示せばよい。 α を α 以下の prime component で最大のものとすると, $\omega \leq \alpha' \leq \beta < (\alpha')^\omega$, かつ $C_p([1, \alpha]) \cong C_p([1, \alpha'])$ であることに注意すれば α は初めから prime component であると仮定してよい。故に $\alpha = \omega^\mu$, μ は ordinal, とする。 β に関する induction で証明をする。

$\beta = \alpha$ のときは明らかにより。

$\alpha = \omega^\mu \leq \beta < \alpha^\omega$ なる任意の β に対して $C_p([1, \beta]) \cong C_p([1, \alpha])$ が成立すると仮定する。 $X = [1, \beta]$, $A = X^{(\mu)}$ (X の μ -th derivative)

$\omega < \omega^{\omega}$ であり、 $X/A \cong [1, \omega^{\omega}] = [1, \omega^{\omega}]$ である。 $\beta < \omega^{\omega} = (\omega^{\omega})^{\omega} = \omega^{\omega \cdot \omega}$ であり、ある $m \geq 2$ があるとして $\omega^{\omega^{m-1}} < \beta \leq \omega^{\omega^m}$ とする。
 $A^{\omega^{m-1}} = (X^{(m)})^{\omega^{m-1}} = X^{\omega^m} = [1, \beta]^{\omega^m}$ であり、また $[1, \beta] \subset [1, \omega^{\omega^m}]$ であることより $A^{\omega^{m-1}}$ は ϕ であるか、また 1 点からなる集合のどちらかである。 A は countable compact space であるから $A = [1, \delta]$ とおける。 $\delta > \omega^{\omega^{m-1}}$ とするとして $A = [1, \delta] \supset [1, \omega^{\omega^{m-1}}]$ より $A^{\omega^{m-1}}$ は 2 点以上をもつことになり矛盾。 故に $\delta \leq \omega^{\omega^{m-1}}$ とする。

$$\begin{aligned}
 C_p([1, \beta]) &\cong C_p([1, \delta]) \times C_p(X/A) \\
 &\cong C_p([1, \delta]) \times C_p([1, \omega^{\omega}]) \\
 &\cong C_p([1, \delta]) \times C_p([1, \omega^{\omega}]) \quad \text{に注意する。}
 \end{aligned}$$

Case 1. $\delta < \omega^{\omega} = \omega$ のとき、 $\delta + \omega = \omega$ であるから、

$$\begin{aligned}
 C_p([1, \beta]) &\cong C_p([1, \delta]) \times C_p([1, \omega]) \\
 &\cong C_p([1, \delta + \omega]) \\
 &\cong C_p([1, \omega])。
 \end{aligned}$$

Case 2. $\delta \geq \omega = \omega^{\omega}$ のとき、 $\delta \leq \omega^{\omega^{m-1}} < \beta$ であるから、帰納法の仮定より $C_p([1, \delta]) \cong C_p([1, \omega])$ 。 故に、

$$\begin{aligned}
 C_p([1, \beta]) &\cong C_p([1, \delta]) \times C_p([1, \omega]) \\
 &\cong C_p([1, \omega]) \times C_p([1, \omega]) \\
 &\cong C_p([1, \omega + \omega]) = C_p([1, \omega \cdot 2]) \\
 &\cong C_p([1, \omega])。
 \end{aligned}$$

最後に iii) の場合は, X が非可算のとき $C_p(X) \cong C_p(C)$, $C =$ Cantor discontinuum を示せばよい。 X は非可算濃度の 0-次元 compact space であるから C は X へうめこまれる。故に,

$$C_p(X) \cong C_p(C) \times C_{p_0}(X/C)。$$

また任意の 0-次元 compact space Z は C の中にうめこめて, しかも $C/Z \cong C$ とできるから $C_p(C) \cong C_p(Z) \times C_{p_0}(C)$ が成立している。特に $Z = C$ または X とすることにより,

$$C_p(C) \cong C_p(C) \times C_{p_0}(C),$$

$$C_p(C) \cong C_p(X) \times C_{p_0}(C)。$$

以上より,

$$C_p(X) \cong C_p(C) \times C_{p_0}(X/C)$$

$$\cong C_p(C) \times C_{p_0}(C) \times C_{p_0}(X/C)$$

$$\cong C_p(X) \times C_{p_0}(C)$$

$$\cong C_p(C)。$$

文献

[1] A.V. Arhangel'ski, On linear homeomorphisms of function spaces, Soviet Math. Dokl. 25 (1982), 852-855.

[2] J. Baars and J. de Groot, An isomorphical classification of function spaces of zero-dimensional locally compact

separable metric spaces, *Comm. Math. Univ. Carolinae*.
29.3 (1988), 577-595.

[3] C. Bessaga and A. Pełczyński, Spaces of continuous
functions IV, *Studia Math.* 19 (1960), 53-62.

[4] Z. Semadeni, Banach spaces of continuous functions,
PWN Warszawa 1971.

[5] V. G. Pestov; The coincidence of the dimension \dim of
 l -equivalent topological spaces, *Soviet Math. Dokl.* 26
(1982), 380-383.